



るるてる



2024年
12月
No.924

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社
■定価 ■ 1部 40円(郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教 「主を待つ」

日本福音ルーテル小岩教会牧師 内藤文子

「そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見る。」
ルカによる福音書21:27



待降節(アドベント)となりました。これからしばらくの間、私たちはクリスマスまで、主を待ち望む期間を過ごします。アドベントは主の「到来を待ち望むことを意味しています。ろうそくが準備され、1本ずつ点火されてゆきま

す。4本全部に点火されれば、まもなくクリスマスです。聖壇の掛け布は「紫色」です。「紫は、悔い改めとざんげのしるしです。一年でもう一回だけ「紫」の期間があります。それは、「四旬節(受難節)と以前呼んでいました」です。それはイエスさまの苦難と十字架の死を忍び、節制した

生活を心がけ「復活」の喜びを待ちながら過ごす期間です。その期間と同じように、神のみ子がこの世に誕生してくださるクリスマス

の喜びにあずかるために、私たちもアドベントの期間、心からの悔い改めとざんげを持って、忍耐し節制して待つ時です。そして、大きな喜びをクリスマスにいただくのです。

私たちの生活の中で「待つ」「待ちなさい」と言われるとき、現代の状況はどうでしょう。何かを待たねばならなくなつたと

き、その時をじつくり待つことができないでしょうか。情報伝達の手段が発

達し、何でも知りたいこと、は調べればあつという間に分かる。相手の情報も、携帯電話で即、わかる。「答えが早く知りたい」と思えば、待つことができず、進むことができず、どちらかと言え、待てなくなっているのが私たちかもしれません。

高校生の頃から教会に行きだした私は、「クリスマス」の時期が大好きでした。青年会で歌うキャロリングの時、あの喜びは教会でしか味わえない最高のものでした。しかし、クリスマスまでの「アドベント」の時があるのを知り、心はクリスマス

の時まで、静かな

静寂な時間を送ることになりました。対照的に町は、どんどん激しくにぎやかになっていきます。静かな祈りの時を待つ、主イエスが今、お出で下さる意味を思います。それは私の日頃の心の「悩みや不安、悪との闘い」があり、イエスさまとその言葉に日々助けられてここまで歩むことができた。自分の力でどうしようもないとき、「身を起こして頭を上げて」(ルカによる福音書21:28)恐れずに、やがて世の終わりに到来なさるイエスさまを、希望をもつて見上げるのです。

待降節(アドベント)のはじめに、本日の聖書で、イエス・キリストが王として到来することを望む聖書の箇所が示されています。「やがて来られるキリスト(再臨の主)に目を注ぐことは、すでに来られた方(イエスさま)へと私たちの目を向けさせ、クリスマスに備える心を起こさせます。教会暦の中で「世の終わり」について語られることはあまり多くはありません。話題となつた



羊飼いたちの礼拝 1529-1530年頃
アントニオ・アッレグリ・ダ・コレッジョ
アルテ・マイスター絵画館、ドレスデン

「カルト」はセンサーシヨナルに終末の危機意識をおおります。それで伝統的な教会は終末にふれることをどちらかといえば、言い控える傾向もあります。世の終わりがいつ来るのかは分かりません。(マルコによる福音書13:32) 大切なのは、「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを助けた」(コリントの信徒への手紙二6:2)として、「今」が私たちに残され示されている「救いの時」であるということ。十字架の救いにあずかることです。

クリスマスに、主はまずへりくだった方として、自分を低くして来られたれどもが近づき触れることのできる「赤ちゃん」としてこの世に来られました。それがクリスマスです。

そして私たちはこの時期に過去に來られた馬小屋で赤ちゃんとして生まれたキリストだけを覚えるのではなく、やがて再び来られる栄光の主であることを覚えるのです。

⑤7 「いつも」

伊藤早奈



「イエスがメシアであると信じる人は皆、神から生まれた者です。そして、生んでくださった方を愛する人は皆、その方から生まれた者を愛します。」
ヨハネの手紙「5:1

これらは私の心の記念日です。魂をえぐられるような経験をした忘れられない日です。記念日はお一人一人の心に、過去にあった経験の忘れられない日として刻まれます。

あれ、なんで記念日じゃないのかしら。二千年以上も前のことなのに。12:25なんてほとんど言われません。少なくとも私は二度も聞いたことがあります。なのに1:17とか3:11とか9:11とかすぐにわかる人は何人おられるでしょう。お一人お一人が持つ魂がえぐられるような経験をされたであろう忘れられない日が記念日として記されることが多いように思います。それらは苦しみや悲しみのあつた日も多いように思います。が、結婚記念日のようにうれしく緊張した日もあつたような気がします。

うな記念日は分かりますか?きつと同じ日につらい思いをされた方々やうれしい経験をされた方々に逆に「なんで?存じなんでしょうか?」と聞かれてしまいがちですが、違います。

クリスマスは記念日ではありません。記念日であつても過去にとどまらないで今も生きて働いておられるチカラです。あなたはクリスマスに何を思いますか?大切な人たちの思い浮かべたり、何かできないかといういろいろ考えたり、何かをしたからではなくて今誰かを思い起こす日。イエス様が生きて働かれておられることを思い起こす日です。イエス様が働かれる日は特別な日だけでなくいつもです。



リレーコラム

「全国の教会・施設から」19



日本福音ルーテル羽村教会

筑田仁

(日本福音ルーテル羽村教会・八王子教会牧師・ルーテル羽村幼稚園チャレン)

羽村教会の宣教の始

まりはいわゆる農村伝道から始まる。この緑豊かな羽村での宣教は、1947年、スタイワルト宣教師、青山四郎牧師による西多摩郡羽村741中野方での集会から始まる。所属は神学校教会(現在のむさしの教会)であった。定期的な集会から、青山牧師が羽村に来て定期的に夕礼拝が行われるようになった。1949年に神学校教会の伝道所になり、2年後の1951年宗教法人を取得した。1952年、教会堂と牧師館の建設が行われ、献堂式が行われている。その時の機関紙「あそびあそび」にはこのように報告されている。『関東地方唯一の農村教会としてその将来の発展が注目された』と。また、195



3年、教会を農繁期託児所として開放して、後のルーテル羽村幼稚園がその歩みを始めている。その後の幼稚園と教会の発展は、ある意味、農村伝道の結実とも言えるであろう。

教会創立期は西多摩郡、それが1956年に羽村町になり、つい最近の1991年に羽村市へと変遷した。村から、東京のベッタウンへと羽村は変化していく中で、当初の農村伝道から、都市の伝道へと教会の宣教も変化してきた。1996年には新しい教会堂が完成し、献堂式を行い現在に至っている。

羽村での宣教について

教会員の方々から、教会と幼稚園は共存共栄です」と聞くことがある。羽村の地で、牧師は入れ替わってきたが信徒の方々は忠実に主日礼拝に与かり、羽村教会を支えて下さった。少子社会の到来、教会員の高齢化など、羽村教会として羽村幼稚園も押し寄せる時代の変化に対応が迫られている。羽村教会は小さな群衆ではあるが、私たちは73年間に及ぶ宣教の歩みを後世にしっかりと伝えていきたいと願っている。

これからも聖霊の働きに豊かに満たされ、羽村教会と羽村幼稚園の歩みが、神様の恵みのもと、共存共栄し続けることを祈っている。

愛泉保育園

木村麻紀

(愛泉保育園園長)

愛泉保育園の歩みは、1952年に清原清喜氏(合志教会初代代議員)がさげられた土地に室園教会の伝道所として合志教会が建てられ、平日の会堂を使つて保育を始めたのが始まりです。1953年に慈愛園の協力により宗教法人の保育園として認可を受けました。『愛泉保育園』の名前の由来は、吉崎モトエ初代園長が聖書の言葉「わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内では泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」(ヨハネによる福音書4:14)に基づいています。

1961年に宗教法人日本福音ルーテル合志教会へ移行して30年後、1992年に



社会福祉法人菊池愛泉会としての新しい歩みを始めました。園舎も新しくなり70名定員の保育園としての働きが始まりました。神様の恵みが教会と保育園と共にあり、導いて下さったことに感謝します。

愛泉保育園は、同じ敷地内に教会と保育園が共にあるという恵まれた環境を与えられています。これまでも現在も、週に1回は教会堂で3歳児以上の合同礼拝の時間を持っています。現在、0〜2歳児のクラスには週に1回、多田牧師が保育室を訪ねて下さり、お話しとお祈りをして頂いています。教会と牧師を身近に感じ、祈ることと賛美することが出来る環境は、神様からの大きな恵みだと思います。感謝しています。

愛泉保育園がある合志市は、熊本市と隣接しています。合志市は半導

体企業TSMCの進出を機に開発が進んでいる地域です。最近、園の周りにも商業施設が出来たり、住宅建設が増えたりしています。目まぐるしく環境が変わりつつありますが、私たちは、子どもたち一人一人の主体性を大切に保育を進めています。

子どもたちが自分で遊びを選ぶ権利や、遊ぶ環境を保障するため、保育士全員で日々学びを深めながら子どもたちに向き合っています。子どもたちが神様の愛に守られながら、心豊かに育つよう歩いていきたいと思えます。

機関紙あそびあそび2024年11月号における誤植のお詫び

機関紙あそびあそび2024年11月号に掲載している本コラムにおいて愛泉保育園の記事が誤植となっており、機関紙あそびあそび2024年10月号に掲載した市ヶ谷教会の記事内容をそのまま掲載してしまいました。

編集、校正体制を早急に見直し、今後このようなことが起こらないように努めてまいります。

この度は、愛泉保育園市ヶ谷教会の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしましたこととお詫びいたします。

改 宣 教 室

永吉秀人総会議長 (日本福音ルーテル東京池袋教会牧師)

「サンタクロースの部屋」とキャパシティ

クリスマス

の時期になると毎年思いつく話があります。児童文学者であり翻訳家である松岡享子さんが1973年の朝日新聞に寄稿された「サンタクロースの部屋」というエッセーです。以下、松岡さんの原文の一部を引用します。

「もう数年前のことになるが、アメリカのある児童文学評論誌に、次のような一文が掲載されていた。『子どもたちは、遅かれ早かれ、サンタクロースが本当はだれかを知る。知ってしまったら、そのこと自体は他愛のないこととして片付けられてしまう

だろう。しかし、幼い日に、心からサンタクロースの存在を信じていることは、その人の中に、信じている能力を養う。わたしたちは、サンタクロースその人の重要さのためではなく、サンタクロースが子どもたちの心に働きかけて生み出すこの能力のゆえに、サンタクロースをもっと大事にしなければいけない』というのが、その大要であった。

この能力には、たしかにキャパシティというこゝとばが使われていた。キャパシティは、劇場の座席数を示すときなどに使われることばで、収容能力を意味する。心の中に、ひとつたびサンタクロースを住ませた子は、心の中に、サンタクロースを収容する空間をつくりあげている。サンタクロースその人は、いつかその子の心の外へ出ていってしまうだろう。だが、サンタクロースが占めていた心の空間は、その子の中に残る。この空間がある限り、人は成長に従って、サンタク

ロースに代わる新しい住人を、ここに迎え入れることができる。』(1973年12月10日朝日新聞「月曜評評より引用」)

サンタクロースのモデルは、セント・ニコラスというキリスト教の聖人の一人です。慈善事業に尽くし、奇跡的な行為が認められた修道士が聖人として認定されます。サンタクロースにはキャパシティがあるという話ではありませんが、サンタクロースが子どもたちの心に住むことによつて、子どもたちに信じる心と他者を受け入れるためのキャパシティをプレゼントしてくれるのです。そして、この信じることによつてつ

くられたキャパシティなるものは、受け入れるものに合せてその空間を広げることが出来る力があることを覚えておきたいのです。信仰は隣人を受け入れるためのキャパシティです。



聖ニコラウス ヤロスラフ・チェルマーク作

世界の教会の声

浅野直樹 Sr.
世界宣教主事・市ヶ谷教会牧師

AIDA (国際開発機関協会)は残虐行為を非難し、即時停戦を求める

昨年10月7日にハマスがイスラエルを襲撃しました。すると今度はイスラエルがガザ地区に報復するという「破壊的な1年が過ぎ、世界から非難の声があがっています。

「世界が行動を起こすのに遅過ぎはしない」。世界ルーテル連盟(LWF)は、国際的な組織AIDAに参加してこう呼びかけています。

AIDAは参加団体の声を一つの声明として、過去12カ月繰り返されてきた残虐な犯罪を非難するとともに犠牲者への追悼を表明しています。パレスチナで活動する80を超える国際的非政府組織(NGO)やNPOがAIDAに加盟しています。

AIDAは「亡くなられた方々を追悼するとともに、人質全員の解放、不当に拘束された数千人規模のイスラエル人とパレスチナ人の解放、そして即時停戦を求める」と表明しています。また市民の保護を最優先し、国際法はあ

らゆる場合に支持されるべきだとしています。声明は「子どもを含むパレスチナ人を記録的な数で殺傷した」無差別爆撃と、広範囲に及ぶガザの破壊、数百万人規模の避難民という今も続く軍事行動の影響を強調し、「このような恐怖がこれほど長く続くのを世界が許すとは思っていません。」と述べています。

現在の状況は、「国際秩序のほころびを反映している、殊に影響力をもつ国が何もせず、イスラエルの軍事行動がパレスチナ人の苦しみを増幅させ国際規範を壊し、国際社会がその設立以来大切にしてきた土台を損なっている」としています。

過去一二年間ガザで人道的活動を行い犠牲となつた人の数が、世界の他地域での紛争解決に当たつた人々のそれよりも多いことをAIDAは指摘しています。援助の手を差し伸べようとする人が大きな危険にさらされていると訴えています。

声明は「非難の声をあげるだけではむしろ、国際法の原則は弱体化し無視され続けるだろう」と警告し、占領の終結と恒久的な和平に向けて世界がただちに行動を起こすことを呼びかけています。

日本賛美歌学会大会参加報告

小澤周平

日本福音ルーテル千葉教会・津田沼教会牧師

参加者も加わって、全体で71名が参加する盛会となりました。

魂の賛美、圧巻の歌声。10月26日、日本福音ルーテル東京教会を会場に日本賛美歌学会第24回大会が開催されました

(実行委員長は宮越俊光副会長)。日本福音ルーテル教会は協賛として協力しました。北は北海道から西は中国・四国までの各支部から超教派の学会員が集まり、さらに、ルーテル教会関係の一般

質疑応答は制限時間いっぱいまで続けられました。時満ちて、『教会讃美歌増補分冊I』の紹介です。松本義宣牧師(日本福音ルーテル東京教会・板橋教会)から、ルター作の賛美歌が説明されました。今回は、日本の歌集に未掲載の歌1曲も合わせて紹介。500年の時を超えてルター作の賛美歌が礼拝堂に響き渡りました。

各教派・団体から紹介された新しい歌を歌った後は、歌集を考えるパネルディスカッションが行われました。司会者(江原美歌子会長)の「とりあえ

ず費用のことは抜きにして」という光に導かれて、登壇者たちがパッションを語り合います。賛美歌を生み、歌集を編むプロセスこそ信仰的な営みであり、神学する時。それを大切にしながら、多様な媒体を使って、誰もがアクセスしやすい形で、礼拝で用いる歌を保存し、教派を超えて共有していきたい。夢が語られると同時に具体的な方法も検討され、今後の研究課題が明らかにされていきました。

研究発表では、水野隆一(学会員、関西学院大学)による詩編のパラフレーズの作成について学びました。

実際に、ルター時代の賛美歌から、現代の創作賛美歌やルーテル教会の改定式文に至るまで、大会中に歌われた歌は約30曲にも及びました。学んで歌い、歌って考える、充実した一日となりました。



水野隆一(学会員)による研究発表

ルーテル『聖書日課』読者の集い開催報告

乾和雄

日本福音ルーテル神戸東教会嘱託牧師

10月21日(月)〜22日(火)の1泊2日、神戸し

あわせの村にて48名の参加者が与えられ、「ルーテル『聖書日課』読者の集い」が開催されました。講師は神戸ルーテル神学校の正木うらら先生で、「聖書の中の女性たち〜ディアコニアに生かされる〜」のテーマで、とてもわかりやすく、講義をいただきました。また、講義の途中で小さなグループに分かれ、参加者のそれぞれが、これまでの人生を振

り返りながら、どのような場面でも、どのようなディアコニアに生かされてきたのかなどの証しを互いに語り合いました。

「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」(マルコによる福音書10:45)とありますように、ディアコニアの源は主イエスキリスト御自身です。イエスキリストの十字架の死にいたるまでのディアコニアのご生涯にはじまり、キリスト者のディアコニアとは、また教会のディアコニアとは何かを、ご説明

していただきました。主の御言葉に聴き続けるなかで、互いを受け入れ合い、認め合うディアコニアへ、互いの賜物を生かし合うディアコニアへと導かれるとのお話でした。また、ディアコニアの働きは、わたしたち自身の働きではなく、三位一体の神さま御自身のお働きであることを教えていただきました。

今回の参加者の皆さまから、「みなさんがとても熱心に学ばれていることがとてもうれしかったです。うらら先生のご講義やお証しから、聖書や神様が好きで信頼してお

られることが伝わってきて、聞いていて私もうれしくなりました」、「聖書のオリジナル原語であるギリシャ語で読み解く聖書は、私にとつてとても新鮮な感動を与えていただきました」、「自然に囲まれた環境の中、ゆったりとすごす時間を過ごすことができて感謝しています」、「参加者の高齢化や、また費用面においても1泊2日がかかったと思えます」、「などの貴重な感想やご意見をいただきました。

来年も10月20日(月)〜21日(火)の1泊2日で「読者の集い」が予定され

ています。詳細が決まり次第、ご案内をさせていただきます。1人でも多くの皆さまのご参加を願っております。

く皆さまのご参加を願っております。

願っております。



ルーテル『聖書日課』読者の集い参加者と正木うらら先生を囲んだ集合写真

熊本地区「宗教改革記念音楽会」 「歌うルター」の「再発見」開催報告

崔大凡
日本福音ルーテル学園
教会教師・九州ルーテル
学院大学チャペレン

熊本地区合同の宗教改革記念行事が今年は音楽会として行われました。宗教改革時代の最初の賛美歌集『エアフルト・エンキリディオン』出版から今年がちょうど500年目となったことを祝い、そこに収録されていた曲のいくつかを学び、一緒に歌って聴く集会として、2024年10月27日午後2時、ルーテル学院中学・高校の礼拝堂を会場に行われました。

一緒に歌うために制作された最初期の賛美歌集『エアフルト・エンキリディオン』です。開会礼拝に続く音楽会では、大江教会の会員江川大地さんの曲解説と進行、日笠山吉之牧師の奏楽によって、かつて『エアフルト・エンキリディオン』に収録されていた曲であり、今は『教会讃美歌』、『教会讃美歌増補版』に収録されている曲の中から6曲を皆で歌い、聴きました。また原曲の歌詞を直訳で見ることにより、歌うために詰め込まれた楽譜上の歌詞よりも詳しく、その曲に込められた信仰、思い、教理を味わいました。「行いでは失われるばかり」、「信仰によつて救われる」と信仰義認が強く表れている歌詞、また「十戒」を12節までの歌詞で歌うなど、多くの人々にとつて新しい

体験、奥深い学びとなりました。ルーテル学院高校合唱団の生徒たちも2曲の賛美を披露することで参加し、当日の会場には約100名の参加がありました。当日まで熊本地域の各教会から集めた宗教改革記念献金に当日の席上自由献金合わせて、19万6450円をルーテル学院大学・日本ルーテル神学校後援会への献金としてさげました。

福音を届ける数々の賛美の歌を感謝して受け止め、一緒に歌えることを喜び、2024年の熊本地区宣教会議主催の宗教改革記念音楽会についての報告とします。



歌うルターの「再発見」
「エアフルト・エンキリディオン」出版500年

2024年 熊本地区ルーテル教会
宗教改革記念音楽会
10月27日(日) 14:00~15:30
ルーテル学院中学・高校 礼拝堂
入場無料・全席自由

開会礼拝 多田哲 牧師 (台志・本原教会)
特別出演 ルーテル学院中学・高校 合唱団

ルター-最初期の讃美歌集『エアフルト・エンキリディオン』をともに学び、味わい、そして讃美を通して歌うルターの「再発見」へ!

九州ルーテル学院内の駐車場には限りがありますので、公共交通機関の利用や、乗り合わせのご協力をお願いします。
お問い合わせ TEL: 096-343-6935 / choi@kic.ac.jp (宣教会・催)
主催 日本福音ルーテル教会熊本地区宣教会議

東教区・宗教改革日礼拝の報告

内藤新吾
日本福音ルーテル
総合教会教師・
東教区伝道奉仕部長

東教区では宗教改革日礼拝を10月31日の夜に持ちました。今年には二部構成となりました。第一部は聖餐式礼拝で、説教をルーテル学院大学学長の石居基夫牧師に奉仕いただきました。第二部は「これからの教会に願うこと」というテーマで、9月まで日本ルーテル神学校校長の任を務められた立山忠浩牧師に発題いただき、リアクター2名、会

場との応答もありました。99名参加で、コロナ禍以来、久しぶりに大勢が集われたように感じます。現在、ウクライナだけでなくガザにおいても戦争が起きてしまっていることに、私たちは悲しみを覚えます。ミャンマーや世界各地での紛争も本当に痛ましいことです。何とか平和に至ることができないか、私たちにできることはなにか、私たちにできることではないだろうか、そういう祈りが夜の集いではありましたが足を運ばせたのかもしれない。石居牧師の説教も、世界

の痛みへの苦悩と祈り、また私たち自身への問いかけを語られました。また、ガザ出身の医師イゼルドン・アブラエーシユ博士が来日されたことに触れ、爆撃で3人の娘と1人のめいの命も奪われながら、その悲痛な悲しみの中で、それでも自分たちは決して憎まずにイスラエルとパレスチナの平和の架け橋になりたいと訴えられていることに、私たちが共に求め続け、その意味を共有することはできないことではないかとのメッセージもいただきました。

第二部では、立山牧師に発題をお願いし、教会行政と教師会また神学校教育にも責任を負われた方として、教会が置かれている現状と今後に向けての提言をいただきました。昔と比べ、「何もしなくても新来会者が来た」時代から「何をしてもうまくゆかない時代になつており、牧師も激減しているが、信徒も牧師も自分の賜物を生かし、自分にできる奉仕をする。気負うことなく、無理をしないことが肝要との口火から、「牧師が自分の時間を確保できるように」、そのためには信徒の理解と協力が不可欠とも話されました。また、

今後とも神学校の使命の重さと、他にも、「ルターとユダヤ人問題」などの神学的課題とも真摯に向き合うことが大事と語られました。以上、あつという間の2時間でした。感謝と共に報告いたします。



第32回 春の全国ティーンズキャンプ開催

今回は宮崎県で農作業をして、大地の恵みをたくさん頂くキャンプをします！申し込み待っています！

〈テーマ〉 「日ごとの糧」
〈日時〉 2025年3月26日(水)～28日(金)
〈会場〉 Agritel (宮崎県えびの市東長江浦1652-179)
〈参加費〉 1万5千円(同一家庭から複数参加の場合は1名につき1万4千円)
〈参加対象〉 2006年4月2日～2013年4月1日生まれの方
〈応募締切〉 2025年1月31日(金)
〈申し込み〉 公式ブログよりお申し込みください。
<https://tngteens.hamazo.tv/e9935532.html>

【同時募集】 スタッフ募集
〈募集人数〉 若干名
〈募集資格〉 2006年4月1日以前生まれの方
キャンプの全日程に参加できる方
事前に開催されるZoomでの研修会に参加できる方
〈スタッフ応募締切〉 2024年12月末日
〈申し込み〉 公式ブログよりお申し込みください。
<https://tngteens.hamazo.tv/e9935538.html>